

上田仮説サークルニュース		9月例会	2016.09号
編集責任 遠藤 裕		発行2016.10.22	
〒383-0041 中野市岩船426-3 サカゲテン中野 B-G		TEL 0269-23-2847	携帯 090-1406-9115
メール endo-h@cronos.ocn.ne.jp		勤務先 長野工業高校	TEL 026-227-8555

9月24(土) 上田市中央公民館 3F第1・第2会議室



午後 3:00 ~ 9:00

参加者数 8名

資料総ページ 68 ペ

<参加者> 柳沢克央さん, 増田伸夫さん, 渡辺規夫さん, 坂口富雄さん,
北村秀夫さん,
北村知子さん, 高見沢一男さん, 遠藤裕

はじめに 9月例会の参加者は8名。

レポートは、増田さんから4本、坂口さんから1本、柳沢さんから1本、渡辺さんから2本（内1本は体験講座用）の合計8本の発表がありました。

知子さんは、広島の入江さんが作られた<宇宙から見た地球>の体験講座をしてくださいました。ページ数もあり、じっくりと体験している時間がとれず、かけ足になってしまいました。理科の教科書では、太陽からの光を考えると、地軸を傾け太陽光線が地球に水平に当たる図が普通だと思いますが、この授業書では、地軸が上下に垂直になっていて太陽光線の当たり方を変えた図になっています。新鮮な図ですが、私(エンドウ)には慣れるのに時間がかかりました。

渡辺さんは、体験ができるように<コンデンサーの接続>の資料を用意してくれました。予想を立てながら実験で確かめていきましたが、豆電球を利用し手軽に確かめていける実験で、実際の授業で扱えそうです。今は電気容量が10Fのコンデンサーが入るということに驚きです。レポートは牧衷さんの講演「民主主義と憲法」(要約版で8ページにまとめたもの)のテープ起こしで、今憲法改正が話題になっている中、憲法への理解を深めことができる内容です。

増田さんは信州岩波講座での佐藤優氏の講演のメモ、今月の書評、今月のお話(渡辺さんの講演2本)のレポート。毎回たくさんの書評・お話を発表してくれています。

坂口さんは専門学校の授業で「書き出しを指定した作文」の指導をし、生徒さんの素晴らしい作品を紹介してくれました。

柳沢さんは、読書メモで6冊の本を紹介してくれました。そのうち1冊は増田さんのガリ本『イスラム教とアラブ』。

渡辺さんは、白川郷の話では硝石を取っていたという話をしてくれました。(もしかしたら今も?) レポートにまとめて発表していただけるとおもしろそうです。

終了後は、かりん亭で夕食。

1. 発表資料

① サークルニュース 8月例会 遠藤 裕 (8ペ)

1. 発表資料

- ① サークルニュース 7月例会 遠藤 裕 (6ペ)
- ② DNAストラップを作ってみませんか 北村知子さん(1ペ)
- ③ マグナス効果を体験できるおもちゃ作り 北村知子さん(1ペ)
- ④ 読書メモ2016年7・8月 - 『「文系学部廃止」の衝撃』ほか- 柳沢克央さん(16ペ)
- ⑤ 信毎記事の紹介：思い出される玉音放送 原武史 柳沢克央さん(1ペ)
- 「お言葉」から見えるもの- 思索のノート 未来への切符
- ⑥ 川上小 2学期始業式の講話 田中浩寿さん(2ペ)
- ⑦ 紹介：わたしの学校経営 「みんな」で「いい学校」を創る 田中浩寿さん(1ペ)
- ⑧ 紹介：高校の通級指導 田中浩寿さん(1ペ)
- ⑨ 竹内三郎講演会メモ 渡辺規夫さん(2ペ)

2. もの作り

講師 北村知子さん

<DNAストラップ> (発表資料②)

<マグナス効果を体験できるおもちゃ> (発表資料③)

② <信州岩波講座2016> 《講演「沖縄と日本」メモ》 増田伸夫さん(8ペ)

佐藤優氏の講演「沖縄と日本」のメモと「会場からの質問に答えて」。

<信州岩波講座2016>

講座Ⅱ 8/27(土) 佐藤優

講演：「沖縄と日本」(13:30～15:00)

会場からの質問に答えて(15:20～16:40)

《講演「沖縄と日本」メモ》

- ★今沖縄で起きていることは、「民族問題」である。
- ★どんな国でも<多数派が少数派の心情を理解するのは難しい>
- ★民族問題が起きるときには、必ず差別の問題が起きる
- ★スコットランドが英国に火をつけた→英国が4つの国(スコットランド、イングラ

ンド、ウェールズ、アイルランド)になる可能性あり

★民族の感情は明るい話からは出てこない

★辺野古の新基地問題は権利問題

★米軍基地の割合の推移

★翁長知事と会談した菅官房長官も中谷防衛大臣も何も分かっていなかった

★4つの類型:「100%日本人」「沖縄系日本人」「日本系沖縄人」「琉球人」

★原発と沖縄の基地とは全く違う論理

★天皇神話が通用しない沖縄

★本土の人に必要なこと＝沖縄を自分自身の問題として捉える当事者性

★本土人にできること＝沖縄から「こうしてほしい」と要請があったことに応えてほしい(要請のないことは勝手にしないでほしい)

《質問に答えて》

☆「(時間的に)100までの質問には答えられる。決して逃げない」と前置き(実際は70余りの質問票)

...

☆質問に対して敢えてかなり厳しくお答えした。それはもっと勉強してほしいからで、お許し願いたい

(増田さんは佐藤優氏の本をたくさん読んでるので、講演を聞いていてとてもわかりやすかったのではいでしょうか。本屋さんに行くと、佐藤優氏の本がたくさん並んでいて目を引きまます。私は読んでみたいと思いながらなかなか読めずにいます。 エドワ)

③ <今月の書評11> [書評]「ユダヤ人」から米国の昔と今が見えてくる

増田伸夫さん(12ペ)

問題の予想を立てながら読む書評。

☆西村肇著『米国 ユダヤ人 キリスト教の真実

—技術・科学と人間と経済の裏面—』(本の森)

(2011年10月31日初版 2012年4月17日第二刷発行)

定価:本体1800円(税別)

著者は東京大学名誉教授(物理学) 著書『冒険する頭』(筑摩書房)

『水俣病の科学』(日本評論社)など

*

板倉聖宣さんご推薦の本である。『たのしい授業 No.391(2012/4月号)』には、板倉さんによる同書の紹介文が掲載されている。紹介文の中で、板倉さんはこの本を「驚くべき本が出ました。私がずっと前から知りたかったことがとてもよく書いてある」と高く

評価する一方で、「同書にしばしば出てくる<天才>という言葉がとても気になった」として、文章の最後に「私の天才論（<たのしくないことは学ばな>の教育論）」をわざわざ書き添えている。

また板倉さんは、「欧米中心の世界史を理解するために重要なくキリスト教とユダヤ教のことが分かるようになるので、西洋史に関心のある人たちに読んでほしいと思って紹介することにしました」と書いている。

そこで板倉さんが激賞する本書について、今回も設問方式で内容の紹介を試みたいと思う。（答えが見えないように工夫していただいて）しばらくおつきあいください。

1. リーマンショック
2. 米国近代産業社会の牽引者
3. ロックフェラーの「石油」事業への参画
4. 「ユダヤ人」とは
5. エンライトウンメント (Enlightenment)
6. 米国への移民
7. ルターとユダヤ人
8. ヒトラー
9. 原子爆弾開発
10. 三位一体思想と暗黒中世のはじまり
11. 情報革命者の宗教・人種

*

この本の内容を一言でいえば（これはけっこう難しいが）「現代の米国は、政治、経済、軍事、マスコミなどの分野を多くのユダヤ人が牛耳っている。米国でもプロテスタント白人から迫害されたユダヤ人が、ユダヤ人だけの手で原爆完成させたことをきっかけに復活し、戦後の米国の世界覇権にも大きく貢献した。現代の情報技術革命においても、ユダヤ人はプロテスタント白人を凌駕している。その原因は、プロテスタント白人が純粋な知的探求のハンデとなる<三位一体>信仰に囚われているからである」ということになるだろうか。この本が「<ユダヤ人>を主役にすえることで、米国の昔と今を見事に浮かび上がらせてくれている」ことは確かだろう。

板倉さんも書評で書いているように、「本書はキリスト教やユダヤ教のことが分かる」ので、私が現在興味関心のある<一神教>への理解も深まった気がする。

・・・(中略)

ここまで書いてきて、<やはり板倉さんの書評はすごい>と思いました。ぜひ、『たの授 No.391 (2012/4月号)』も併せてお読み下さい。 (増田)

(物理学者が書いたという本です。板倉さんが書評を書いているということは、著者と板倉さんは考え方に何か通じるところがあるのかもしれませんが。是非読んでみたいと思います。 エンドリ)

④ 【書き出しを指定した作文】をやってみました 坂口富雄さん(4ペ)

【書き出しを指定した作文】(『たの授』掲載)の生徒さんの作品の紹介。

坂口さんは、レポート作成のための文書能力を高めるための授業で行ったとのこと。書き出しがあればなんとか書ける(「手紙が時候の挨拶から始まるのはそのためだ」という板倉法を利用した方法だそうです。1年生は文章を書くのに抵抗がある生徒さんが多いそうで、書き出しは生徒の日常に近いものになるよう工夫したそうです。授業では全員の作品を読んで紹介したとのこと。

レポートでは8名の生徒さんの作品が紹介されています。

<作品例>

○ 今日の昼食は久々のカップラーメンだ。お湯を入れて、3分待った。「よし」といってふたを開けると、いい具合に出来上がっていた。とってもおいしそう。粉末スープを入れてかき混ぜて、さあ食べようとしたらえらいことに気づいた……。お箸がない。お箸がないと食べられない。だが近くにあったものは、ストロー。かき混ぜるところまではできた。スープは飲めるが麺は食べられず伸びきっていくのであった。

○ 空を見上げると気持ちの良い青空が広がっていた。しばらく見ていると大きな雲が流れてきた。その雲は小さくじらの形をしていた。私はとてもなつかしい感じがした。小学生の時の授業で『くじらぐも』という話をきいたことがあった。「あの話みたいに雲に乗ることって、できるのかな。」ひとりごとを言いながら、おもいきりジャンプを試みた。「天まで届け1, 2, 3。」だけどやっぱり雲には乗れなかった。

(生徒さんの書いた文章を読ませてもらうと、とてもおもしろいです。書き出しが決まっていると、いろいろと豊かなイメージが浮かんできて、素晴らしい文章ができるようですね。作文指導に困っている方にはおすすめです。 エンドウ)

⑤ 読書メモ2016年 8・9月 柳沢克央さん(4ペ)

— 『物理学者が発見した米国ユダヤ人キリスト教の真実』 ほか—

柳沢さんが8月、9月に読んだ本の紹介。

◇はじめに

いつもの「読書メモ」と同様、サークルで発表することを目的とすると、読書がはかどるので、今回もこのメモを作成しました。自身のため、記録を残すことが第一目的です。みなさま、よろしく(適当に)おつきあい下さい。今までのものと同様に説明あり、引用あり、要約あり、感想ありで諸々が混交しておりますのでご注意を。

(私物)と書き添えてあるもの以外はすべて篠ノ井高校図書室蔵書。

◇読書記録または読書メモ（順不同）

- ◎西村肇著『物理学者が発見した米国ユダヤ人キリスト教の真実』（本の森・2011年）
（私物）
- ◎佐藤優著『知性とは何か』（祥伝社新書 420・2015年）
- ◎増田伸夫著『イスラム教とアラブ』（上田仮説出版・中野本社 2016年）（ガリ本・私物）
- ◎青井未帆著『憲法と政治』（岩波新書 1606・2016年）
- ◎立川談慶著『いつも同じお題なのになぜ落語家の話は面白いのか』（大和書房・2015年）
- ◎和田秀樹著『この国の冷たさの正体』（朝日新書 548・2016年）

◇まとめ

今回は「ヒット」がなく、「内野ゴロ連続の三者凡退」といった感じのレポートとなった。いい本を読んでもその良さがわからなかったというか、そういう状態だった。こういう時もあるということ記録として残しておくことも記録のうち…かも…。
（柳沢さんは、増田さん著『イスラム教とアラブ』（ガリ本）の要点をまとめ、感想として「ガリ本を作るという「大きな仕事」も「小さな仕事」（要約や書評、良い問題づくりなど）の積み重ねからできていることがよく分かって深く感謝」と書いています。 エトワリ

⑥ 民主主義と憲法 講師 牧衷 渡辺規夫さん（8ページ）

—運動論から憲法を考える—

牧衷さんの講演の要約版の紹介。

2007年6月10日 南が丘倶楽部 テープ起こし 渡辺規夫

- ◇民主主義と憲法
- ◇憲法は政府の権力を抑制するためのものか
- ◇民主主義の暴走を押さえるために憲法がある
- ◇20世紀後半の憲法観
- ◇憲法観を変えていく
- ◇憲法は自衛隊の創設を禁止していない
- ◇改憲に対する闘争の方針
- ◇日本の外交政策の問題

（渡辺さんは要約版として8ページにまとめたとのこと。「政府の暴走というのは民主主義の世の中では国民の暴走を背景としなければ成り立たない。政府に責任があるんじゃなくて国民に責任がある。」、「憲法には国民の暴走を押さえるという役割があるというふうに20世紀後半以降の憲法観

は変わっていかねばいけぬ。現にそういうことを言う憲法学者も少数だけれどもいる。」と牧さんがお話しになっているところが特に印象に残りました。〈政府の暴走は国民に責任がある〉とても重たい言葉です。 エトワリ

⑦ <渡辺：今月のお話2> 平和運動を考える

—平和運動の基礎理論としての仮説実験的認識論 増田伸夫さん（8ペ）

昨年の瀬戸市文化センターでの渡辺さんの講演の紹介（テープ起こし）

2015/6/6 瀬戸市文化センターにて 渡辺規夫 講演
テーマ②「板倉式発想法に基づき発想して研究する」より
テープ起こし・編集：増田伸夫

◇平和運動のあり方への不満

◇人を非難して多数派になろうとするパターン

◇伝説的な優等生：山本義隆

◇論争での勝ち負けを判定する法

◇一番痛いところを突け（板倉式研究論／運動論）

◇いい問題を見つけ、いいスローガンを立てることができたとき、平和運動をやったらしい

[あとがき] より

板倉さんは（大学4年生から大学院生の頃）、当時の平和運動をケンカランと思っていた。

〈「戦争がいい」というヤツがいるから戦争が起こる〉なんていうような、そんな簡単な話じゃない。平和運動を進めるためには、〈「戦争がいい」という理由がもっともでありながら、じつはウソである〉ことを明らかにしていかなければいけぬ。それで、科学教育を通じて平和教育をしたいと考えるようになって、仮説実験授業が生まれた。

（以上の要旨は『今月のお話 2』「板倉 1：平和教育の基礎理論としての仮説実験授業」より引用）

昨年（2015年）夏の大会での板倉講演は「真理は論争では決まらない。仮説実験授業では〈真理は実験で決まる〉のであって、間違った意見や間違った人を決してバカにしないという伝統をつくってきた」という内容で、今回の渡辺講演とかなり重なるものだったなあと感じています。（増田）

（今の社会は国際化していて、もしかすると日本も気づかないうちに戦争状態に……。こんなことは避けたいです。普段から平和に関心を持って生活していく必要があることをひしひしと感じています。 エトワリ

⑧ <渡辺：今月のお話4>革命的な中味を改良主義的に拡げる

－牧衷運動論から学ぶ現状分析－

増田伸夫さん（8ペ）

昨年瀬戸市文化センターでの渡辺さんの講演の紹介（テープ起こし）

2015/6/6 瀬戸市文化センターにて 渡辺規夫 講演
テーマ②「板倉式発想法に基づき発想して研究する」より
テープ起こし・編集：増田伸夫

◇【問題1】を思いついた場合だけ手を出す（平和運動）

◇<自由と平等>の対立から世の中を見る（現状分析）

◇大国主義と小国主義（「グローバル教育」を考える）

◇撤退するときの秘訣（サッサと逃げる）

◇革命的な中味を改良主義的にゆっくり拡げる

◇板倉運動論と牧運動論，板倉認識論と牧認識論

<あとがき>より

「<革命的な中味を構造改良的にゆっくり拡げる>という，とてもうまい運動方針をとっているのが仮説実験授業なんです」という言い方は，仮説実験授業をじつにうまく捉えていると思いました。

そして撤退の秘訣は，「そんなこと言いましたかねー。もう予想変更しました」とサッサと逃げればよいと。この話もとても役に立つお話です（『今月のお話3』『牧10：上手な負け方（撤退の秘訣）』も併せてお読み下さい）。

私も，板倉さんと牧さんの考えは，自発性を尊重する戦後精神といい，原子論的世界観といい，その源流が学生運動にある点など，大変共通していると思います。（増田）

（日常経験からすると，革命的に中味を変える（大幅な変更）ことは周りからとかく批判されがちです。構造改良的にゆっくり変えるというのが，大切なんですね。でもあんまりゆっくりやっていると永遠に機会がなくなってしまうかも・・・。 エドワリ）

2. 体験講座

<コンデンサーの接続> 渡辺規夫さん作 講師：渡辺規夫さん

問題1～6とお話・作業，質問で構成されています。渡辺さんはコンデンサーの授業をやっていて，思いついた問題をやってみたところ，生徒の反応が良かったので授業書形式にしてみたそうです。まずは大ざっぱにコンデンサーの<直列接続は電気容量が小さくなる>，<並列接続は電気容量が大きくなる>ことがわかるようになることを目的としています。実験ではコンデンサー，豆電球，電池を使って回路を組み，豆電球が光るかどうかが，明るさはどうか，光っている時間はどうかを予想を立て実験で確かめて

いきます。最後の部分は、「コンデンサーの並列接続と直列接続の話」に続いていくようですが、この部分はまだ未完です。

<宇宙から見た地球> 広島 入江洋さん作 講師 北村知子さん

1 地球の昼と夜（15ペ） 質問1 問題1～4，研究問題

2 地球の夏と昼（25ペ） 質問1，2 問題1～3，

ページ数が多く、大急ぎでの体験講座となりました。お話の部分が多いことと、へソとなる問題がないので、もっとこの問題をやっていくとおもしろくてためになりそうだという部分がほしいというような感想がありました。あと、問題の答えがないところも。



あとがき 10月に入り、このところ朝は10℃そこそこめっきり寒くなってきました。これからは紅葉のシーズンですね。

職場では、就職試験は山場を超え一段落してきた頃ですが、これから今度は進学者向けの指導が本格化。なんとか無事合格してほしいと願っています。

9月29日(木)に副担をしている3年生のクラスの生徒さんたちとクラス研修で奈川渡ダムを見学してきました。発電所や変電所を見学したり説明をお聞きしました。送電線では変圧器が大活躍。教科書で理論的なことは学びますが、やはり実際に発電所の現場などを見学させていただくと、インパクトが違います。今では車の運転中、電柱や電線に目がすぐについてしまいます。以前渡辺さんが変圧器の実験を見せてくれましたが、送電線など関連して教えられないかなどと考えています。

(エンドウ)



★ 今後の予定 ★

11月26日(土)

12月17日(土)

1月28日(土)